

アイスピグ

# 関東初のデモ洗浄

## 横浜市庄送管路で

東亜グラウト工業が欧州のアクパール社（本社：バールセロナ）から技術導入したアイスピグ管内洗浄工法の現場実証が11月19日、横浜市保土ヶ谷区仏向町のマンホールポンプ庄送管路で、関東地区初のデモ洗浄が行われた。アイピグシャ-



横浜市保土ヶ谷区内で行われた

ベットを管内に注入してスケールや残存物を排出する工法で、上下水道管、プラント配管など口径400mmまでの圧力管に適用できる。現場実証では、口径100mmの圧送管（鑄鉄管）を使ってデモ洗浄を行った。アイスピグは、専用製氷機でつくったシャッターベット

状アイスを運搬ユニットで現場に搬入。管内に注入してシタを形成、下水処理水などでこれを押し出すことでソフトに管内部を清掃、夾雑物も除去する。原料が水なので閉塞の心配がなく、曲管や伏越しにも対応できることが特徴。

横浜市内でのデモ洗浄では、約100m区間のマンホールポンプ人孔内の配管に注入口を取り付けて、アイスピグを注入。注入工程や洗浄工程などで、施工性

の確認を行った。当日は、横浜市下水道管路部管路保全課の職員が多数見学に訪れた。

同工法は英国プリストル大学が開発。アクパール社が2010年に実施権を取得。英国、オランダ、米、カナダ、オーストラリア、チリなどで実績がある。同年、東亜グラウト工業が国内での専用実施権を取得、昨年9月には「アイスピグ研究会」を立ち上げて、来年度からの受注開始と同工法の普及、適応分野の開拓などをすすめている。

神奈川県内の普及に向けては、2月中旬に研究会メンバーを中心に神奈川県支部（湘南合成樹脂製作所）を8社で設立する予定で、今回のデモ洗浄を通じて認知度向上をはかっていた。神奈川県内では、マンホールポンプが相当数採用されており、その効果的な洗浄方法の一つとして今回、横浜市がアイスピグ工法に注目、デモ洗浄の場を提供した。